

松本駅前の居酒屋から駅舎の中を走って自宅へ帰ろうと思ひ、エスカレーターに乗ると、頭の上からリストの「ラ・カンパネラ」が降ってきた。東西自由通路に設置されている「楽都まつもと夢ピアノ」で誰かが弾いているのだ。階段の上に、すりガラスの手すりが設置されているために、誰が弾いているのか分からない。後ろまで回り込んでみると、40歳を少し過ぎたふうに見えるお兄さんだった。

ピアノが設置されて2年ほどたったと思うが、わざわざ回り込んで演奏を聴いたのは初めてだ。このお兄さんは普段は道路工事の仕事をしているとか。ピアノで飯を食うのは至難の業で、ソリストか教室の先生の他はない。

7月10日にセイジ・オザワ松本フェスティバルのチケットが発売され

松本駅のピアノ

て、インターネットで申し込んだ人の話では「2年間のブランクのためか、取るのに苦労した」という。松本は今や「音楽のメッカ」の一つと言ったら、ひいきの引き倒しか。松本駅のピアノが、全国の腕自慢が弾いてみたいと言つて出掛けてくるような場所になれないものだろうか。それにはまず、手すりのガラスを透明に変えて、弾き手を

聴衆の前に出さなくては。反響が大きいピアノの上

吸音板の設置も必要になるかも。手すりに寄りかかってリストを聞きながら考えていたら、突然、曲がポップスに変わった。弾き手が10代の青年に変わったようだ。松本駅のピアノは結構、順番待ちで忙しいのかもしれない。

(松本市白板1、平岡武、77歳)

点差

こうさてん